

平成27年度

第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成27年6月29日（月） 12:50～15:15

場所：南相馬市仮設焼却施設 管理棟2F会議室

出席委員（敬称略）

全国都市清掃会議 技術部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学環境管理センター センター長	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環資源基盤技術研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 教授 環境科学研究科 研究科長	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔
環境省福島環境再生事務所 減容化施設整備課 課長	小島 啓之
オブザーバー	
福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	鈴木 仁
福島県相双地方振興局県民環境部 副部長兼環境課長	清野 弘

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 南相馬市（直轄） 200トン/日（200トン/日×1炉） 仮設焼却施設
2. 広野町（代行） 80トン/日（80トン/日×1炉） 仮設減容化施設

II 検討内容

1. 南相馬市（直轄）200トン/日 仮設焼却施設

冒頭、JFE・日本国土 特定業務共同事業体（以降JVと記載）より、業務内容について説明があった。

（1）維持管理について

委員より、灰処理設備棟の換気設備の維持管理はどのように行っているのかとの質問があった。JVより、換気設備のフィルターはプレフィルターとHEPAフィルターの2段フィ

ルターであり差圧が上昇すればフィルターを交換し、交換時は換気設備を止めるが灰処理設備棟内の空気は焼却炉の燃焼空気に利用しているため、換気設備を一時的に停止しても室内の空気が屋外に漏れることはないとの説明があった。

#### (2) 処理対象物について

委員より、フレキシブルコンテナの処理について何か問題はないかとの質問があった。JVより、フレキシブルコンテナを破袋機にまとめて入れると停止する等の問題があるため、重機で裁断して処理しているとの回答があった。

委員より、フレキシブルコンテナの材質によっては、排ガスの塩化水素濃度が上がる可能性があるかとの質問があった。JVより、多量に入れると濃度が上がるため、フレキシブルコンテナを一度に多量に焼却せず、できるだけ他のごみと混ぜて均一になるように配慮しているとの説明があった。

#### (3) 灰分量について

委員より、灰分が約30%と多いが処理に問題はないかとの質問があった。JVより、30%程度なら問題なく処理可能との回答があった。

#### (4) 受入設備の管理状況について

委員より、受入ストックヤード棟の扉の制御及び換気について質問があった。JVより、搬入部分の扉は二重扉となっており、両扉が同時に開かないように制御しているとの説明があった。また、換気については、常時クレーン棟より吸引しているため受入ストックヤード棟の空気が屋外に漏れることはないとの説明があった。

## 2. 広野町（代行）80トン/日 仮設減容化施設

冒頭、新日鉄住金エンジニアリング株式会社（以降 新日鉄と記載）より、業務内容について説明があった。

※「広野町の災害廃棄物の国による代行処理」については [こちら](#)

#### (1) 除染廃棄物について

委員より、除染廃棄物の発生年度毎の保管量、性状などを把握しているかとの質問があった。新日鉄より、年度毎の保管量はある程度把握しているとの回答があった。

#### (2) 安定燃焼について

委員より、ごみの攪拌による安定燃焼が重要であるが、ごみの均質化のために混合することはしないのかとの質問があった。新日鉄より、ごみはフレキシブルコンテナに入ったまま熔融炉に投入するが、除染廃棄物と災害廃棄物の投入回数の比率でごみの均質化を図

っているとの回答があった。

(3) 停電時の対応について

委員より、停電時の電源の確保とバグフィルタろ布の焼損対策について質問があった。新日鉄より、停電時には非常用発電機が作動するが、万一作動しなくてもバッテリーでガス冷却塔噴霧水ポンプの運転を継続し、ろ布の焼損を防ぐ対策を講じているとの説明があった。また、非常用窒素ポンベを用いて溶融炉内に窒素を吹き込むことで安全に炉の停止を行う対策を講じているとの説明があった。

(4) スラグ中のセシウム濃度について

委員より、スラグ中のセシウムはクリアランスレベルだが、これは結果としてそうなっているのか、それともセシウムがスラグに残らないようにコントロールしているのかとの質問があった。新日鉄より、スラグの排出性を良好に維持するために石灰石の投入量を調整しているが、とくにスラグ中のセシウム濃度をコントロールしようとしているわけではないとの回答があった。

以上